

新聞コンクール

奨励賞に県から3人

興味を持った新聞記事を切り抜いて、感想や意見を添える第5回「いっしょに読もう!新聞コンクール」(日本新聞協会主催)の入選作が決まった。県内から3人が奨励賞を受賞し、学校全体での取り組みに贈られる優秀学校賞に由利本荘市立上川大内小学校、学校奨励賞に横手高校定時制が選ばれた。

県の人口減に危機感

由利本荘市立由利中3年
佐々木ゆうかさん15



公民の授業で広げた新聞の人口減を伝える記事

で「本県の減少率、全国最大」との見出しが踊っていた。65歳以上の老年人口の割合が全国1位、逆に14歳以下の年少人口が最下位ということに驚きを感じた。

「何とかしなければ」との思いで、若者が集まる秋田をつくるため、秋田の良さや悪さと率直に向き合い、長所や特徴を伸ばそう

とつづった。

自分が住む由利本荘市由利町地区は確にお年寄りが多いが、祖父母をはじめ、みんな明るく元気だ。「このまま住み続けたい。そのためには働ける場が必要だ」。新聞記事を読んだ。そのため、街のいいところをみんなで探している。

見出しに興味ひかれ

県立能代西高2年

畠優介さん17



親に勧められた新聞記事を読むのが日課。情報源はテレビ、インターネットなどもあるが、大きなニュースはやはり新聞で確認する。機械化された工場で作

られた野菜について、太陽の光を浴びない野菜がおいしいのかという視点で書かれた記事を読んだ。「植物工場」という見出しが目に見え、青空の下、緑のじゅうたんのように広がる畑を見て育ったため、興味があった。「見出しが面白いと新聞を読む人がもつと増えるのでは」。ニュースの価値や要点を的確に伝える新聞ならではの「見出し」に注目している。

地元の記事に誇り

県立能代西高2年

松嶋史紘さん16



通学前に毎朝、新聞に一通り目を通す。ある日、地元の檜山茶の記事が大きく取り上げられていた。京都の宇治茶の生産農家が、檜山茶に興味を持って製茶法などを視察に来たことなどが書かれていた。「(茶の名産地として有名な)宇治から興味を持たれたことを誇りに思った」

テレビと違い新聞は何回も読み直して考えることができるのがある。「記者の思いも記事からくみ取りたい」という。これからも新聞で地元の魅力を再発見していきたいと思っ

ている。